

## 平成29年度公益財団法人ふくしま海洋科学館事業報告書

### 【事業総括】

平成29年度は、平成30年度に開催される「第10回世界水族館会議」の具体的な運営のための準備を進め、参加者の募集を開始しました。

また、海外の4水族館と新たに提携し、教育と保全に関する情報交換、技術交流、飼育技術交流等を図り、「第10回世界水族館会議」への協力を要請しました。

入館者数は、532,256人と、震災前の平成22年度に対し38.2%減となり、目標の60万人には達することはできませんでしたが、前年比3.8%の増加となりました。

当館では、基本理念と展示のシナリオを堅持しつつ、自然とのふれあい、味覚を含めた五感に訴える体験プログラムなどを実践して、自然に親しむ次世代の子どもたちの「子育て支援活動」に取り組みました。

また、展示の充実を図るために、水生生物保全センター機能を十分に生かし、採集及び飼育が困難とされる魚類等の繁殖研究や、ラブカ雌の卵及び卵黄を有する胎児を始めとする深海性魚類の飼育実験を行いました。

「ふくしまの海」のエリアについては、「ふくしまの海～大陸棚への道～」としてリニューアルに着手しました。

海外における域内保全活動と位置づけているシーラカンス調査については、インドネシアシーラカンス標本1体の共同研究により館内での展示を行い、世界で唯一のアフリカシーラカンス標本との同時展示を実施したほか、調査研究を進めました。

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館では、福島県内の希少淡水魚の保全活動及び参加体験型的水族館として教育普及活動事業を展開しました。

- 1 親潮アイスボックスにニュードウカジカの初展示を行い、オオメンダコやハゴロモコンニャクウオ等他では見られない展示を行いました。この他、水生生物保全センター串本分館を活用して飼育困難生物種の魚卵の採取を行いました。
- 2 水生生物保全センターでは、東海大学との共同研究としてラブカ雌のお腹から出てきた卵及び卵黄を有する胎児をはじめとする深海性魚類の飼育実験を行い、展示することができました。
- 3 県内希少淡水生物であるシナイモツゴやゲンゴロウ類などの繁殖を行いました。また、域内保全の基礎資料としての県内淡水生物の生息地調査を行いました。これを基に、県河川工事での希少淡水生物に配慮する工事の助言を行いました。
- 4 友好提携園館である葛西水族園とウミガラスの交換や新潟市水族館とのROVを使ったアカムツ調査、香港オーシャンパークとのメガネモチノウオとの生物交換、韓国ロッテワールドアクアリウムへのタカアシガニ輸送を行いました。
- 5 「ふくしまの海」を閉鎖し、改修工事を行いました。

- 6 ゴマフアザラシが雄1頭を出産しました。
- 7 シーラカンス学術研究
  - ・ インドネシアシーラカンス標本の共同研究期間の延長に合意し、2017年7月より2018年12月までとしました。
  - ・ 同標本の公開解剖を館内で実施しました。
  - ・ 南アフリカにおいて海洋ゴミに関するシンポジウムに参加し、インドネシアシーラカンスの現状を報告しました。
  - ・ 北九州市立自然史・歴史博物館と共同でシーラカンスシンポジウムを開催しました。
- 8 世界水族館会議実施に向けての調整を行い、会議運営会社、旅行業務の受託会社を決定しました。12月に参加者募集を開始しました。
- 9 海洋生物の放射能汚染調査に取り組み、その結果について館内展示や研究会等において情報提供を行いました。また、平成24年度より大学研究機関と共同で行っている県内河川の放射性物質測定についても継続して行い、結果を発表しました。
- 10 水産物の風評被害払拭を目的とした「調(た)ベラボ〜ふくしまの魚を食べてみよう〜」を月1回開催し、当館周辺及び福島第一原子力発電所の沖約2kmで採集した魚の放射線量を測定解説すると共に、試験操業漁獲物の試食会を催しました。これらの活動は、復興庁など公的機関からも注目され、復興イベントなどで広く紹介されました。
- 11 誘客と来館者サービス向上のため、様々なイベント、企画を実施しました。
- 12 わくわく里山・縄文の里にオオコノハズクやコシジロヤマドリを新たに搬入し、縄文の自然を再現した環境に動物を加えて展示の充実を図りました。
- 13 ユーラシアカワウソが雌2個体を出産し、「あずき」「くるみ」と命名しました。
- 14 学校教育を支援するための館内学習プログラムや移動水族館を開催し、当館の学校利用の促進を図るとともに、館内の常設プログラムとして命の教育の場である釣り体験や、漁業関連体験プログラムである缶詰製造体験、かつお節削り体験を開催して、生涯学習施設としての機能を充実させました。
- 15 福島県内及び猪苗代湖の希少淡水生物の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開しております。
  - ・ 年度内の入館者数65,643人(前年度66,864人)

## 【事業内容】

### I 公益目的事業

#### 1 飼育展示事業

- (1) 水槽展示及び生物の飼育状況

平成29年度末時点での展示は以下のとおりである。

① 水槽数		
本館		107槽
B I O B I Oカッパの里		1槽
蛇の目ビーチ		1槽
わくわく里山縄文の里		2槽
アクアマリンえっぐ		28槽
合計		139槽
② 生物の飼育状況		
哺乳類	7種	23点
鳥類	8種	74点
爬虫類	7種	8点
両生類	14種	452点
魚類	439種	125639点
昆虫	11種	139点
無脊椎	295種	16448点
植物	500種	約20000点
金魚	55品種	948点
合計	1281種	162783点
	55品種	948点

## (2) 生物収集事業

展示生物(水生生物、陸上小動物及び植物)採集、購入・輸送

- ① 淡水生物採集  
オイカワ、イトヨ他県内生物採集・熱帯生物購入
- ② 沿岸生物採集  
福島県水産試験場調査船乗船採集、深海生物  
福島県松川浦採集・小名浜サンマリーナ アマモ、ギンポ類他
- ③ 北方系生物採集：北海道オホーツク海沿岸  
ハダカカメガイ、ナメダンゴ、オオメンダコ、オオグチボヤ等深海性生物
- ④ 南方系生物採集  
カツオ、マイワシ
- ⑤ サンゴ礁、マングローブ生物収集  
熱帯魚やコモチサヨリ等
- ⑥ 植物：県内採集でシュンラン等・ラン（購入）
- ⑦ ゴマフアザラシ繁殖（雄1頭）
- ⑧ ユーラシアカワウソ繁殖（雌2頭）
- ⑨ コシジロヤマドリ雌雄2羽搬入
- ⑩ オオコノハズク雄2羽搬入
- ⑪ ユーラシアカワウソ雄1頭搬入
- ⑫ ユーラシアカワウソ雄1頭搬出

## (3) 南方系生物蓄養事業

カツオ、ギンカガミを蓄養・輸送・搬入（奄美大島）

(4) 水生生物保全センター運営事業

- ① ヤエギス等飼育困難生物の研究（串本分館）
- ② シナイモツゴ、ゲンゴロウ等の繁殖研究
- ③ 駿河湾ROV調査
- ④ サンマやラブカ他の飼育調査研究

(5) 飼育生物管理事業

本館、えっぐ、水生生物保全センター、屋外施設の動植物展示及・飼育管理

## 2 移動水族館事業

移動水族館専用車（通称：アクアラバン）において、各地域・施設のイベント等に出展した。普段当館に足を運ぶことができない人に海の生物に親しむ機会を提供し、自然事象への興味、関心を高めてもらうことと併せて、開催地の地域振興に貢献した。

また、主催者要請に応じ、有料移動水族館専用車を運行した。

## 3 研究交流事業

(1) 学会・研究会等

① 平成29年6月

節足動物発生学会誌掲載

Embryonic Development of a Diving Beetle, *Hydaticus pacificus* Aube (Insecta: Coleoptera: Dytiscidae): External Morphology and Phylogenetic Implications (オオイチモンジシマゲンゴロウの胚発生)

② 平成29年7月29日

第4回福島大学環境放射能研究所研究活動懇談会「海域の放射能汚染：これまでとこれから～福島県の漁業復興に向けて～」 「アクアマリンふくしまの取り組み～ふくしまの海は今～」 (口頭発表)

③ 平成29年9月2日から3日

「アクアマリンふくしまのHAPPY OCEANの取り組み」 横浜国立大学で講演

④ 平成29年9月16日から18日

日本魚類学会

「和歌山県で採取したヤエギス卵と育成」「スミツキアトヒキテンジクダの水槽内繁殖行動および初期発育形態」のポスター発表

⑤ 平成29年9月

第23回野生動物医学大会

糞より抽出したDNAを用いたカワネズミの雌雄判別の試み (ポスター発表)

⑥ 平成29年10月6日から8日

日本甲殻類学会

「飼育下におけるモロトゲエビ属 *Pandalopsis* 2種の形態比較」

「知床羅臼沖におけるイバラガニモドキ鰓腔内のコンニャクウオ属卵の出現率」発表

⑦ 平成29年10月15日

日本海洋学会2017年度秋季大会

「環境水族館アクアマリンふくしまの教育普及活動」 (ポスター発表)

⑧ 平成29年11月16日から18日

日本動物園水族館協会種保存会議

「サンマの累代繁殖」水族館事例報告講演

- ⑨ 平成29年12月11日から12日  
水族館シンポジウム  
「羅臼の生物収集と教育普及活動について」発表
- ⑩ 平成30年2月1日  
東京大学大気海洋研究所主催 中学生高校生シンポジウム「海を探る、海を調べる。  
キャリアと研究」（講演）
- ⑪ 平成30年3月  
第65回日本生態学会大会  
カワネズミにおけるマイクロサテライト・マーカー開発  
～系統地理及び行動・生体究明の試み～（ポスター発表）

#### 4 海洋文化推進事業

- (1) 世界水族館会議事務局
  - ① 実行委員会開催2回、情報連絡会議開催3回、各協力企業との協議を実施
  - ② 募集  
ホームページを開設、会議情報の発信（11月）  
参加登録開始（12月）、協賛募集（2月）、宿泊、ツアー募集開始（3月）
- (2) グリーンアイ・プロジェクト
  - ① インドネシアシーラカンス展示（4月21日）
  - ② インドネシアシーラカンス公開解剖（5月31日）
  - ③ アフリカシーラカンス公開解剖（5月14日）

#### 5 企画営業事業

- (1) 企画管理事業
  - 接客や案内誘導等の業務委託、年間パスポート販売等（来館者サービス向上）
  - ① 券売・受付業務委託  
券売・改札業務（専門業者委託で接客質向上）
  - ② 年間パスポート販売  
利用者利便性の配慮（リピーター増を目的「年間パスポート」販売促進  
「福島県子育て応援パスポート事業」（協賛）「年間パスポート」（割引販売）  
7, 254件（平成28年度 7, 174件）
- (2) 広報宣伝事業
  - 県内外に一層アピール。イベント開催告知、誘客促進。各種媒体で積極的な広報  
宣伝活動を展開。
  - ① 各種媒体等を活用した広報
    - ア テレビCM放映
      - ・GW向け：宮城1局、新潟2局、山形1局
      - ・夏休み向け：県内2局、宮城2局、新潟2局
      - ・春休み：県内1局、宮城1局
    - イ ラジオCM
      - ・GW向け：新潟ラジオ1局
      - ・夏休み向け：宮城1局
      - ・春休み向け：福島1局
    - ウ 新聞  
地元3紙及び隣県地方紙（河北新報および新潟日報タブロイド）に、観光シーズン

誘客目的の広告掲載。

エ 雑誌等

夏季向け広域広報

夏季中心に県外フリーペーパー情報誌掲載

オ 看板

福島空港に広報看板

カ その他

夏季および春休み Google、Yahoo、Facebookディスプレイ広告

県内の新聞、情報誌にパブリシティ活用の広報活動とWeb旅行情報サイト掲載

春休み テオ・ヤンセン展開催に伴う広報（実行委員会による）

テレビ県内 4局

新聞 県内1社（福島民報）、宮城1社、栃木1社、山形1社

ラジオ 県内2局

ももりんビジョン放映

飯坂線車内広告

都営地下鉄中吊り及び駅貼広告

② ポスター・パンフレット等の作成・活用

ア 館内案内リーフレット

館内案内リーフレットを来館者に配布。

県内外観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布。

イ イベントチラシ・ポスター

季節イベントにチラシ・ポスターを作成

県内外の公共施設等に配布・掲出。

市内新聞折り込みや小学校、幼稚園の全児童・園児への配布。

ウ イベントカレンダー

年間を通したイベントカレンダーを制作。

県内外の宿泊施設、旅行エージェント、公共施設等に配布。

③ 館内外における季節演出及び催事等の実施

ア GWイベント（5月）

GWに合わせ開館時間を午後7時まで延長し、参加型のイベントを開催。

イ シャークタッチプール

蛇の目ビーチにサメの仲間と触れ合うことができるシャークタッチプールが期間限定で設置した。

開催日 4月29日～6月25日の土日祝日

ウ 潮干狩り（5月、6月）

5月GW明けから6月末までの毎週日曜日に、蛇の目ビーチで潮干狩りを開催

エ 調べラボ

福島県で漁獲される魚を来館者の目の前で捌いて、放射性物質量を測定することにより、現在の福島沿岸の魚介類の安全性を説いた。また、アクアマリンふくしまで6年間行ってきた海洋放射能調査の結果についてパネル展示を行った。毎月1回開催。

オ いわき伝統野菜マルシェ

いわき市の協力の下、いわきの伝統野菜の啓発のため、農産物や加工品の販売を行った。7月と10月に2回開催。

カ アクアマリンの夏まつり（7～8月）

夏休み期間中の土日とお盆期間の開館時間を延長すると共に、多彩なイベントを開催した。

わくわく里山お宝ハンター、蛇の目ビーチずぶぬれ水鉄砲大会、金魚まつり、おたのしみ縁日等

キ 秋のイベント

食欲の秋や芸術の秋にちなんだイベントを開催した。

こども祭り、秋のさんま祭り、縄文柴展覧会、ハロウィンギョスプレイイベント等

ク クリスマスイベント（12月）

11月25日のイルミネーション点灯式に始まり、クリスマスまでの期間、さまざまなイベントを開催した。また、クリスマス期間の3日間、開館時間を午後8時まで延長した。

ポインセチアのクリスマスツリー展示、松ぼっくりのツリー探し、アイシングクッキー教室、Bar竜宮城、イワシのフィーディングタイム他

ケ お正月イベント（1月）

お正月プレゼント・生き物かるた大会・フィギュア釣り、新春餅まき、縄文犬と写真撮影他

④ アクアラバンを活用した営業・広報宣伝

移動水族館専用車両（通称：アクアラバン）により県内外のイベントに出展し、営業・広報宣伝を推進した。

・出展か所数 26か所 観覧者数 39,269名

⑤ キャラクター「権兵衛」PR

館内で来館者サービス・移動水族館や県外観光PR実施

（3）観光誘致事業

① 地元旅館ホテル等の販売実績

ア 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット（地域連携チケット）

平成29年度実績 26,844枚（平成28年対比 101.6% 422枚増）

〇いわき市周辺の契約宿泊施設等限定の入館券を販売

※契約宿泊施設等・・・11か所（2組合、1グループ、8施設）

イ 入館前売券販売

平成29年度実績 11,019枚（平成28年対比 104.6% 488枚増）

② 団体旅行等の送客実績

ア 通常団体（20人未満の小団体、障害者団体、復興支援団体を含む）

平成29年度実績

件数 1,099件（平成28年対比 103.6% 38件増）

人数 29,760人（平成28年対比 101.7% 505人増）

イ 障害者団体

平成29年度実績

人数 15,681人（平成28年対比 108.2% 1,186人増）

ウ 復興支援団体（平成29年度実績の一部）

大震災から復興までの道のり、風評被害の現実を学び見学したいという目的で、「震災ガイダンス」を受講し、その後、館内を見学した団体

③ 減免団体・学校団体

平成29年度実績

件数 413件 (平成28年対比 95.6% 19件減)  
人数 20,058人 (平成28年対比 102.2% 428人増)

・幼稚園又は保育園団体

平成29年度実績

件数 226件 (平成28年対比 109.7% 20件増)  
人数 1,381人 (平成28年対比 109.3% 118人増)

※人数には、園児の数は含まない

・市町村主催団体

平成29年度実績

件数 37件 (平成28年対比 88.0% 5件減)  
人数 964人 (平成28年対比 87.1% 142人減)

・財団主催団体

平成29年度実績

件数 6件 (平成28年対比 120.0% 1件増)  
人数 175人 (平成28年対比 157.7% 64人増)

④ 割引等

ア コンビニチケット

・通常チケット(販売額 一般1,800円 小～高900円 通年販売)

平成29年度実績

一般 4,650人 (平成28年対比 118.6% 728人増)

小～高 1,957人 (平成28年対比 122.8% 363人増)

イ ラブカップルチケット(2人1組のペアチケット 3,400円 期間限定販売)

平成29年度実績

ペア券 784枚 (平成28年対比 88.3% 104枚減)

人数 1,568人 (平成28年対比 88.3% 208枚減)

平成29年度、コンビニチケット全体の入館者数は8,175名、  
平成28年度対比で883名増 112.1%の結果となった。

(※8,175人=4,650人+1,957人+1,568人)

⑤ 助成券

・福島県職員助成券

平成29年度実績

一般 246人 (平成28年対比 123.6% 47人増)

小～高 35人 (平成28年対比 233.3% 15人増)

・福島県教職員助成券

平成29年度実績

一般 309人 (平成28年対比 105.4% 16人増)

小～高 107人 (平成28年対比 89.9% 12人減)

・私学職員助成券

平成29年度実績

一般 227人 (平成28年度実績なし)

小～高 51人 (平成28年度実績なし)



平成29年度、助成券全体の入館者数は975名で、平成28年度対比で344人増、154.5%の結果となった。新規に開始した私学職員助成券が入館者数増に貢献した。

⑥ パスポート割引

当館の年間パスポートの提示での割引

(1枚の提示で5名まで 一般200円引 小～高100円引)

平成29年度実績

一般 2,502人 (平成28年対比 865.7% 2213人増)

小～高 654人 (平成28年対比 872.0% 579人増)

※平成28年度は、2月1日から開始したため入館者数が少ない。

(4) 地域交流事業

積極的に周辺地域と交流を深め地域振興に貢献した。

① 小名浜まちづくり市民会議へ参画

会員として会議やイベントに積極的に参画

② 小名浜港まつりへの協賛

館内外の花火大会の観覧に配慮してイベントに貢献

③ ばんえつ発見の旅サポートの発足

磐越道沿線の7つの文化施設の参加を募って連絡協議会を発足。

各館共通割引券作成、配布し、1,288枚の利用があった。

参加施設を追加し、年度末には12施設となった。

④ いわきら・ら・ミュウ、小名浜美食ホテルとの連携

上記2社と情報交換を密にし、相互にイベントへの協賛や協力。

平成30年夏にオープン予定イオンモールとの情報交換を実施した。

⑤ 移動水族館専用車（アクアラバン）を活用した地域交流の推進

県内文化施設での移動水族館開催

## 6 学習交流事業

(1) 解説活動事業

子どもから大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象に次のような解説活動を実施した。

① バックヤードツアー

当館のボランティアが展示水槽のキーパースペース、実験室、調餌室、サービスヤード、濾過槽、ホルマリン室を案内しながら、水族館の仕組みや飼育員の仕事について紹介した。

(参加者数24,820名)

② ハンズオン解説

アクアマリンえっぐのボランティアズステーションにおいて、小名浜港で採集したプランクトンの観察や化石、標本などを手に取って観察できるハンズオン解説を行った。

③ アクアマリンえっぐワークショップ

アクアマリンえっぐにて有料の工作体験として通年でワークショップを実施した。

1. ビックなぬりえのキーホルダー

3月1日(水)～4月26日(水)

- スタンプを押して色をぬり、貝殻で飾るコルクのキーホルダー作り。
2. サメの歯のレプリカづくり  
4月27日(木) ~ 5月31日(水)  
サメの歯の型でつくるレプリカ作り
  3. パイプウニのウインドチャイム  
6月1日(木) ~ 7月27日(木)  
パイプウニの棘を利用したチャイム作り
  4. ヒオウギガイのキーホルダー  
7月28日(金) ~ 9月13日(木)  
ヒオウギガイにマリンガラスや貝がらで装飾したキーホルダー作り。
  5. カラフルな海のキャンドル  
9月14日(金) ~ 10月31日(火)  
貝殻に色とりどりのろうを入れて飾り付けするキャンドル作り。
  6. ふわふわナメダンゴをつくろう!  
11月1日(水) ~ 12月26日(火)  
毛糸の玉に、目や鰭をつけるナメダンゴ作り。
  7. 戌のサイコロカレンダー  
12月27日(水) ~ 2月4日(日)  
木片を利用したカレンダー作り。
  8. 時計で手のひら水族館  
2月5日(月) ~ 3月14日(水)  
シーグラス、貝で装飾した時計作り。
  9. ゆらゆら光るふしぎなお魚をつくろう  
3月15日(木) ~ 4月18日(水)  
卵型の発泡スチロールにマスキングテープと貝殻等で装飾したお魚作り。

## (2) 企画展開催事業

来館者サービス向上と広報、常設展示を拡充したテーマ展示を実施

### ① 稚魚 The World

平成29年7月22日~平成29年9月18日

魚類研究家坂上治郎氏が撮影した稚魚の写真と財団職員の稚魚育成の研究成果を発表した展示を行った。

### ② 森の幼稚園~森の子どもダイアリー~

平成29年7月30日~平成29年9月18日

森の案内人であり写真家である小西貴士氏による自然とふれあう子どもたちの写真展を開催した。

### ③ 第10回小名浜国際環境芸術祭

小名浜国際環境芸術祭は、2003年に開催されてから今年で14回目を迎えた。大漁旗デザイン展を中心に、海をテーマとした様々な芸術作品を展示した。

開催期間：平成29年9月16日(土)~11月23日(木・祝)

○第10回小名浜国際大漁旗アートコンペ 受賞者作品展

期間：平成29年9月16日(土)~11月23日(木・祝)

○小名浜国際大漁旗アート展 招待作品 アーティスト、世界の水族館

- 期間：平成29年9月16日（土）～11月23日（木・祝）
- キッズアート展 パッケージフィッシュ
    - 期間：平成29年9月29日（金）～平成29年11月4日（土）
  - 海からの贈り物 シーボーンアート展「海をきれいに！」
    - 協力：NPO日本渚の美術協会
    - 期間：平成29年9月17日（日）～11月23日（木・祝）
  - 第45回我ら海の子展（巡回絵画展）
    - 主催：一般財団法人サークルクラブ協会・公益社団法人日本海洋少年団連盟
    - 期間：平成29年9月30日（土）～11月23日（木・祝）
  - 俳句の季（とき）コンテスト
    - 期間：平成29年10月21日（土）～11月23日（木・祝）
  - 海の男の盆栽展
    - 協力：小名浜盆栽研究会
    - 期間：平成29年10月27日（金）～11月1日（水）
  - Smile, smile & Smile! 2～みんなで一緒に輝こう～
    - 主催・プロデュース：team Picasso（チームピカソ）
    - 期間：平成29年9月23日（土・祝）～11月23日（木・祝）
  - うみのえいがプロジェクト「海のキャンバス」
    - 主催：日本財団 海と日本PROJECT inふくしま
    - 後援：福島県教育委員会・いわき市・福島県漁業協同組合連合会・アクアマリンふくしま・福島中央テレビ
    - 期間：平成29年9月23日（土・祝）～11月23日（木・祝）
- ④ 那須どうぶつ王国ふれあい動物園  
 アクアマリンふくしまのイベントとして、那須どうぶつ王国の移動動物園を開催した。  
 平成29年12月28日～平成30年1月3日  
 開催場所 小名浜美食ホテル2号棟「潮目交流館」
- ⑤ 干支展2018  
 平成29年12月22日～平成30年1月8日  
 平成30年の干支「戌」にちなみ、チンアナゴの全身観察展示の他、施設内に展示している犬にちなんだ生きものの紹介のパネル展示を行った。
- ⑥ つるし雛の展示  
 平成30年2月10日～3月14日
- ⑦ 東日本大震災原子力災害パネル展  
 平成30年2月15日～平成30年3月15日  
 主催：福島県文化スポーツ局生涯学習課  
 震災の記憶を後世に残すため、県内各地で県民の手により撮影された当時の写真を展示した。
- ⑧ テオ・ヤンセン展 in ふくしま2018  
 平成30年3月3日～5月6日  
 主催：テオ・ヤンセン展実行委員会  
 オランダ人の芸術家テオ・ヤンセン氏が製作したストランドビースト13体の展示を行った。

### （3）展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行い、図書や映像ソフト等の充実にも努めた。

- ① 放射線に対する基礎的な情報や館内の環境放射線量、海水中の放射性物質など  
の情報を提供するとともに、当館が行っている調査研究について展示を行った。
- ② オセアニックギャラリーでは「環境水族館からのメッセージ」「漁場から食卓まで」  
「あぶくま東縁の地質生物」「弁財天ウナギプロジェクト」「よみがえれ木戸川」  
「採集する。研究する。展示する。」について展示した。
- ③ 2階ホワイエの図書コーナー、えっぐのキッズコーナー、ボランティアーズステ  
ーションの図書やぬいぐるみ、観察用機材の管理を行った。
- ④ 縄文時代動物柴犬の展示（アクアマリンえっぐ）
- ⑤ うみう展示（アクアマリンえっぐ）いわき照島生息地天然記念物指定
- ⑥ わくわく縄文の里において、日本産淡水生物、アカネズミ、コシジロヤマドリ、  
オオコノハズクの展示を行った。

#### （４）学校教育関連事業

- ① ガイダンス  
当館に来館した学校団体を対象に施設の展示概要の紹介と館利用上の注意点等を  
解説するガイダンスを実施した。（１７回実施、対象者数７２７名）
- ② 館内学習  
当館に来館した学校団体を対象に研修室などで授業を行った。当館の釣り堀を利用  
した命の教育、獣医の仕事の紹介、震災からの復興などをテーマとした学習を実施  
した。  
（８２回実施、対象者数４，１５５名）
- ③ 移動水族館の実施  
移動水族館専用車（アクアラバン）による生物の観察、標本や化石などを手に取  
って観察をするハンズオン展示、震災からの復興をテーマにしたレクチャーを行う  
移動水族館を実施した。  
（２３校、対象者数２，４７４名）
- ④ 職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習の実施  
中学校、高等学校、大学の生徒・学生を対象に、業務体験をとおして職業観・勤  
労観の習得や進路指導の一環を目的とした実習を実施した。  
ア 中学校・高等学校生徒の職場体験 １１回実施 対象生徒数４４名  
イ 大学生のインターンシップ ４回実施 対象学生数 ９名
- ⑤ 館内学習支援事業  
いわき市内の小学校を対象に当館のバスで児童を送迎し、館内において学習活動  
を実施した。（１０回実施、対象者数２５０名）
- ⑥ 教職員セミナー、教員研修の実施  
８月１日から３日の３日、県内の教職員を集めて館の利用の説明やわくわく里  
山・縄文の里を紹介する教職員セミナーを開催し、７１名が参加した。また、県い  
わき教育事務所からの依頼による高等学校初任者研修や経験者研修を実施した。

#### （５）情報提供事業

- ① 情報コーナー  
情報コーナーでは、国内外の友好園館の展示を開始した。
- ② インターネットによる情報提供

ホームページを更新することにより、様々な情報提供を行った。最新生き物情報欄では生物の搬入搬出や繁殖出産の情報を、ニュース欄では季節ごとのイベントや企画展の詳細、参加体験プログラムの募集等の情報を発信した。また、風評被害払拭に関わる環境放射線量や海水中放射性物質質量など放射線量の情報については毎週更新した。

併せて、フェイスブック、ツイッターを活用して、生き物の搬入や新規展示、生き物の様子など展示生物に関する情報のほか、イベントの実施状況など、タイムリーな情報提供をほぼ毎日行った。

③ 機関誌の発行

水族館の活動内容をはじめ、生物や海に関する様々な情報を掲載した機関誌「AMF NEWS」を年4回発行した(発行部数 5,500部/回)。

④ プレスリリース

年間137件の投げ込みを実施した。テレビの取材が50件、新聞の取材は120件あった。

⑤ その他

テレビ、雑誌等の取材協力を積極的に行い、夏季にNHKの全国放送で当館が紹介された。

## 7 スクール開催事業

海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

(1) スクールの開催

事前募集を行った参加者を対象として様々な体験活動を提供するスクールを開催した。

- ・キッズプログラム：16回378名
- ・ナイトプログラム(宿泊プログラム)：7回208名

(2) 炭火烧体験、かつお節削り体験

子ども漁業博物館「うおのぞき」の命の体験プログラムとして、ホタテガイやハマグリ、サザエなどの活きた魚介類を炭火で焼いて食べる炭火烧体験と昔ながらの手動の製造機で缶詰をつくる体験、かつお節を削る体験を提供した。

(3) 釣り体験

アクアマリンえっぐの釣り場において魚を釣って調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の場を提供した。(参加者数18,942組)

## 8 ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進した。また、ボランティア活動者に対しては、資質向上のための専門研修を継続的に行い、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。

第1期～第19期ボランティア更新者	215名
第20期新規ボランティア登録者	23名
登録者数(平成30年3月31日現在)	238名

## 9 施設管理事業

(1) 修繕工事

① 電気設備工事

ア 非常放送設備の改修を行った。

(2) 省エネルギー・光熱費対策

熱源機の運転調整と季節に応じた設定水温変更、屋外緑地帯の散水の工業用水への一部切り替え等によりエネルギー使用量と光熱費を削減した。

(3) 主要維持管理施設

主要維持管理施設は、次のとおり。

① いわき市小名浜字辰巳町地内

ア ふくしま海洋科学館

・本館等敷地面積	56,189.52㎡
・本館延床面積	12,935.11㎡
・水生生物保全センター延床面積	925.09㎡
・子ども体験館「アクアマリンえっぐ」延床面積	1,266.70㎡
・屋外トイレ面積	106.18㎡
・温室面積	52.54㎡
・わくわく里山・縄文の里関連施設延床面積	1,509.56㎡

イ 駐車場関係

・施設外駐車场面積	12,093.81㎡
-----------	------------

② いわき市小名浜下神白字松下地内

ア 海水取水・送水施設

・取水ポンプ棟延床面積	1棟	84.43㎡
・ろ過送水棟延床面積	1棟	180.04㎡
・取水管（管径 350mm）		91.10m×2条
・揚水管（管径 300/350mm）		146.00m
・送水管（管径 250mm）		2,885.04m

③ 和歌山県串本町

ア 水生生物保全センター分館

・延床面積	180.00㎡
-------	---------

(4) 来館者用駐車場の確保

繁忙期に臨時駐車場を確保し、安全かつスムーズな整理誘導を行った。  
駐車場は次のとおりである。

① 常時使用駐車場

- ・オアシス駐車場 281台（うち身障者用5台、バス15台）
- ・公共駐車場 472台（うち身障者用17台）

② 臨時駐車場 200台（小名浜港湾建設事務所から随時借用する）

\* 駐車場合計 953台

## 10 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業

猪苗代町緑の村管理センター、釣堀・養魚鑑賞池、淡水魚館の3施設の総称を「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」として、福島県内及び猪苗代湖の希少淡水生物の

保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開した。

また、現淡水魚館内に希少淡水生物繁殖保全水槽を設置し、福島県内の希少淡水魚、は虫類、両生類、鳥類、哺乳類等の保全活動と調査研究を行い、情報発信に努めた。

#### (1) 施設の概要

○猪苗代町大字長田字東中丸地内

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館

猪苗代町緑の村管理センター	736.00m <sup>2</sup>
猪苗代町緑の村釣堀、養魚鑑賞池	10,000.00m <sup>2</sup>
猪苗代町淡水魚館	605.10m <sup>2</sup>

#### (2) 展示事業

- ① 福島県の河川・湖沼と保全の展示
- ② 淡水生物の分布について的水槽展示及びパネル展示
- ③ 猪苗代湖保全パネルと展示水槽
- ④ 希少淡水魚繁殖保全水槽
- ⑤ 県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示水槽
- ⑥ 福島県の両生類の展示水槽
- ⑦ ユーラシアカワウソの展示
- ⑧ カワネズミの展示
- ⑨ 国外・国内外来種の淡水水生生物の展示
- ⑩ 企画展（海と山とのつながり、ガンバの大冒険、めだかの学校、鳥のふしぎ発見）

#### (3) 体験プログラム

- ① 釣り体験の実施、館内観察オリエンテーリングの実施
- ② 参加体験型（小川水槽）展示と映像を放映
- ③ 塗り絵コーナー及び飛び出す水族館他のワークショップコーナーの設置

#### (4) 情報発信

各種展示及び新規ホームページを通じて、猪苗代湖の保全、希少淡水魚の繁殖・保全を来館者に対して情報発信した。

#### (5) ボランティア活動

- ① 釣り堀運営支援
- ② 来館者の参加体験支援

## II 収益事業

### 1 ミュージアムショップ運営

店舗名称 ウミノス・ゴンベッサ・アクアマリンショップ JOHMON

3店舗にて商品販売。（179,928,254円 対前年度比105.8%）

（平成28年度売上額170,037,969円）

(平成22年度比 63.8% 売上額282,063,891円)

## 2 レストランの運営

おいしい水族館「HAPPY OCEANS」をテーマとした資源量豊富な漁業資源の食材をオリジナルシーフードメニューとして開発し提供した。

### (1) レストランアクアクロス

平成29年度売上 44,624,030円 (前年度比102.1%)

(平成28年度売上43,715,750円)

震災前(平成22年度売上額37,392,835円 H22対比119.3%)

### (2) 露天 The Roten Café Breeze

繁忙期に、テラス軽食販売を実施。

南テラスウッドデッキ修繕工事と同時に店舗及びイス・テーブルを更新。

委託料収入1,018,241円

(平成28年度実績851,641円、前年比119.6%)

### (3) 寿司処「潮目の海HAPPY OCEANS」

資源の持続的な利用をテーマに大水槽前で寿司の提供を行った。

委託料収入855,175円

(平成28年度実績863,044円 前年比99.1%)

## 3 イブニングイベント事業

雑魚を美味しく食べる会(名称・雑魚の会)

雑魚のブランド化及び地域交流の場を趣旨として年12回開催。

(参加者数計320人)

## 4 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館のショップ開設

飼育展示生物をモチーフにオリジナル商品をカワセミ館で開発販売し、収入確保に努めた。